

令和 6 年度厚生労働科学研究補助金（障害者政策総合研究事業）

「育成医療対象疾患の実態把握に関する研究」 班

研究代表者

国立成育医療研究センター病院長

笠原 群生

背景

自立支援医療（**育成医療**）は、児童福祉法第4条第2項に規定された「障害児」を対象に、身体の障害を除去、軽減する手術等の治療により、確実に効果が期待できる者への医療費助成である。

育成医療の対象の一つである口唇口蓋裂は、生後から長期間にわたり、複数回の機能回復の治療を受けなければならず、「障害児」の対象を外れる18歳以降も、身体の障害を除去、軽減を目的とする治療を要する可能性がある。しかし障害の程度等の理由により、18歳以上を対象としている自立支援医療（**更生医療**）に移行できない場合、治療を終えられた者との間に治療時期による医療費助成の不均衡が生じているとの議論がある。さらに口唇口蓋裂は、他の医療費助成制度の対象とはならない場合が多い。

同様の問題を抱える育成医療対象の疾患は、口唇口蓋裂に限らないと思われるが、育成医療をはじめとする医療費助成の実態は不明な点が多い。

政策的な課題

育成医療の概況は、厚生労働省による福祉行政報告例にて、支給認定件数を把握できるが、年齢ごとの受給状況の報告は無く、また障害種別の報告となっているため、どのような疾患に対し、身体の障害を除去、軽減する治療が実施されているのか分かっていない。

福祉行政報告例における障害種別の育成医療の支給認定件数をみると、「**音声・言語・咀嚼機能障害**」（形成外科・歯科・耳鼻咽喉科領域）**4割**強、「**肢体不自由**」（整形外科領域）**2割**、「**内臓障害**」（循環器外科、小児外科領域）**2割**、「**視覚障害**」（眼科領域）**1割**弱の割合であることから、少なくともこれらの診療科領域について、育成医療の年齢階層ごとの受給状況と、具体的な受給対象となった疾患を把握することが必要であると考えられる。

研究目的

本研究は、

- 育成医療による医療費助成の対象となったと思われる疾患は何か
- 年齢により対象となる疾患の分布に違いがあるのか
- 疾患ごとにどの時期にどのような医療介入が行われるのか
- とくに育成医療の年齢上限である17歳前後に、どのような疾患に対し、どのような治療が必要とされているのか
- 育成医療を受けられていた者のうち、更生医療へ移行できている者はどのくらいいるのか
- 更生医療へ移行できないのはなぜか

などについて調査研究を行い、育成医療の全体像を把握し、育成医療と更生医療の制度の狭間にある疾患について、障害福祉施策の拡充に資するエビデンスを得ることを目的とする。

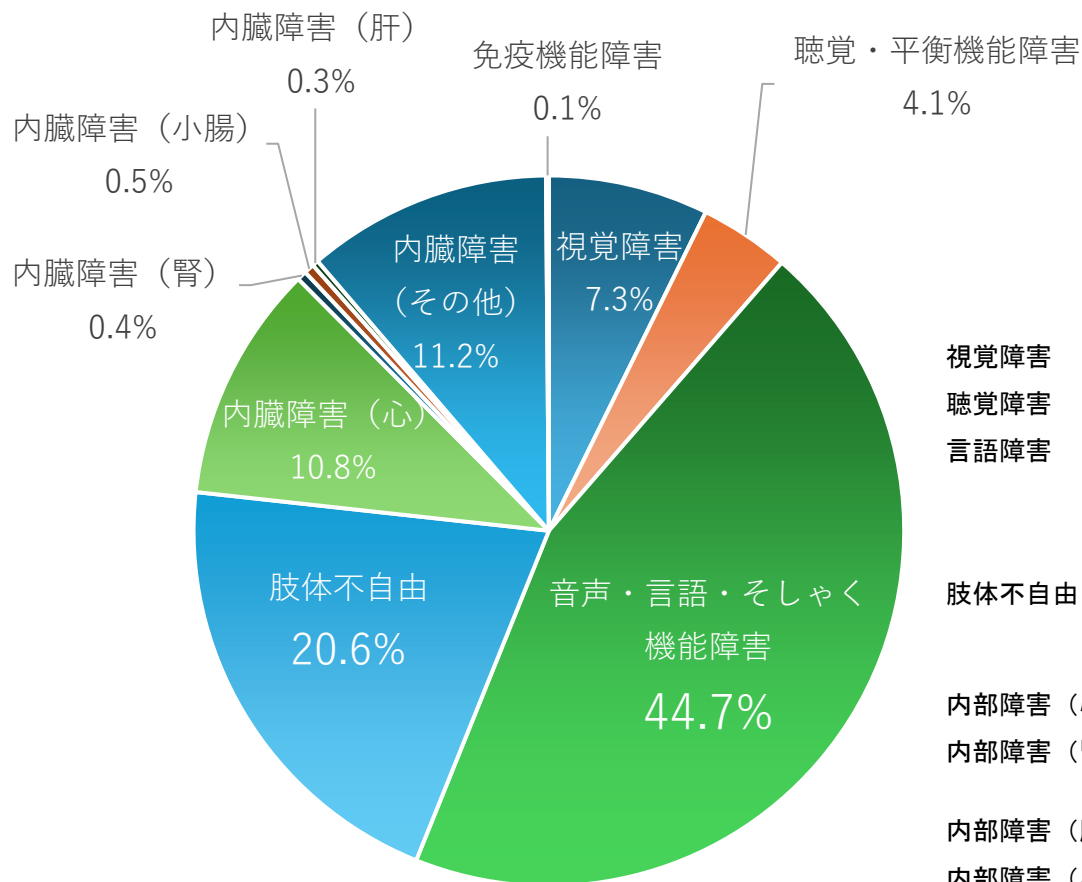
育成医療の対象となる障害と疾患の例

障害区分	疾患例
(1) 視覚障害	白内障、先天性緑内障
(2) 聴覚障害	先天性耳奇形
(3) 言語障害	口唇裂等
(4) 肢体不自由	先天性股関節脱臼、脊椎側彎症、くる病等
(5) 内部障害	
＜心臓＞	先天性心疾患、後天性心疾患
＜腎臓＞	腎機能障害（人工透析、腎移植）
＜肝臓＞	肝機能障害（肝移植）
＜免疫＞	HIV感染
＜その他の 先天性内臓障害＞	先天性食道閉鎖症、先天性腸閉鎖症、鎖肛、 巨大結腸症、尿道下裂、停留精巣等

育成医療の対象となる障害と疾患の例

障害区分	疾患例	
(1) 視覚障害	白内障、先天性緑内障	眼科
(2) 聴覚障害	先天性耳奇形	耳鼻科
(3) 言語障害	口唇裂等	形成外科・歯科
(4) 肢体不自由	先天性股関節脱臼、脊椎側彎症、くる病等	
(5) 内部障害		整形外科
＜心臓＞	先天性心疾患、後天性心疾患	循環器外科他
＜腎臓＞	腎機能障害（人工透析、腎移植）	小児科他
＜肝臓＞	肝機能障害（肝移植）	移植外科他
＜免疫＞	HIV感染	小児科
＜その他の 先天性内臓障害＞	先天性食道閉鎖症、先天性腸閉鎖症、鎖肛、 巨大結腸症、尿道下裂、停留精巣等	小児外科他

育成医療の障害種別支給認定件数 (R4)



認定件数的には、形成外科、歯科、整形外科、循環器外科、小児外科、眼科、耳鼻咽喉科が中心

視覚障害

白内障、先天性緑内障

聴覚障害

先天性耳奇形 → 形成術

言語障害

口蓋裂等 → 形成術

唇顎口蓋裂に起因した音声・言語機能障害を伴う者であって、鼻咽腔閉鎖機能不全に対する手術以外に歯科矯正が必要な者 → 歯科矯正

肢体不自由

先天性股関節脱臼、脊椎側彎症、くる病（骨軟化症）等に対する関節形成術、関節置換術、及び義肢装着のための切断端形成術など

内部障害（心臓）

先天性疾患 → 弁口、心室心房中隔に対する手術

内部障害（腎臓）

腎臓機能障害 → 人工透析療法、腎臓移植術（抗免疫療法を含む）

内部障害（肝臓）

肝臓機能障害 → 肝臓移植術（抗免疫療法を含む）

内部障害（小腸）

小腸機能障害 → 中心静脈栄養法

内部障害（免疫）

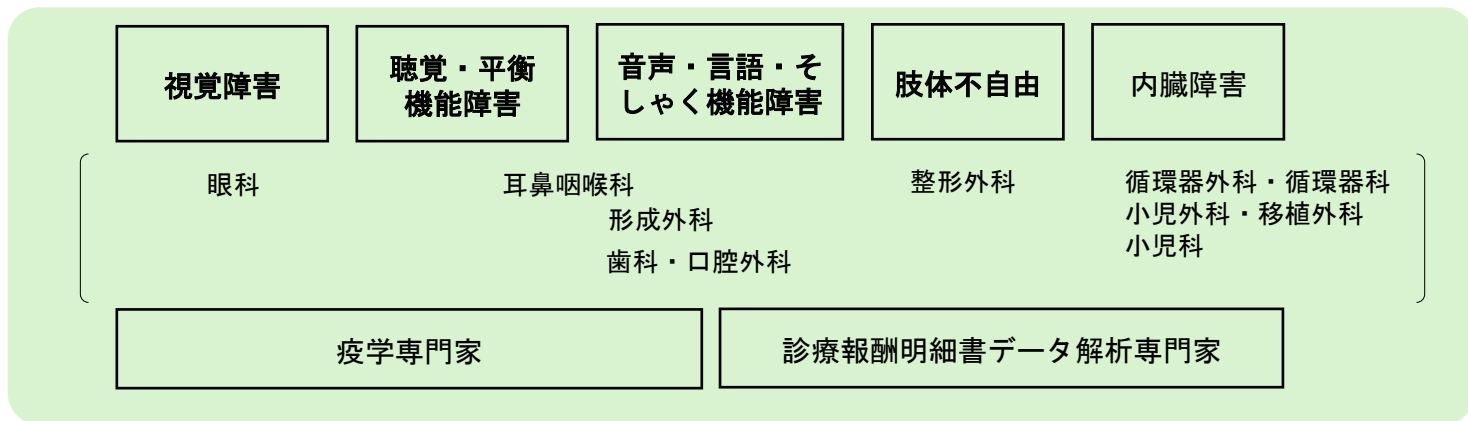
H I Vによる免疫機能障害 → 抗H I V療法、免疫調節療法、その他H I V感染症に対する治療

内部障害（その他）

その他の先天性内臓障害：先天性食道閉鎖症、先天性腸閉鎖症、鎖肛、巨大結腸症、尿道下裂、停留精巣（睾丸）等 → 尿道形成、人工肛門の造設などの外科手術

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
研究代表者	笠原 群生	国立成育医療研究センター病院	病院長
研究分担者	彦坂 信	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 形成外科	診療部長
	鎌田 将史	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 形成外科	医員
	今井 啓道	東北大学 医学系研究科 外科病態学講座 形成外科学分野	教授
	上田 晃一	大阪医科薬科大学 形成外科学	教授
	梅田 千鶴	大阪医科薬科大学 形成外科学	助教
	杠 俊介	信州大学 学術研究院医学系	教授
	関 敦仁	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部	統括部長
	江口 佳孝	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 整形外科	診療部長
	高木 岳彦	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 整形外科	診療部長
	石丸 哲也	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 外科	診療部長
	下島 直樹	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 外科	診療部長
	平田 康隆	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 心臓血管外科	診療部長
	浦田 晋	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 循環器科	医員
	仁科 幸子	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 眼科	診療部長
	吉田 朋世	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 眼科	医員
	守本 倫子	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 耳鼻咽喉科	診療部長
	鈴木 法臣	国立成育医療研究センター病院 小児外科系専門診療部 耳鼻咽喉科	医員
	丹原 惇	新潟大学 大学院医歯学総合研究科 歯科矯正学分野	講師
	廣瀬 尚人	広島大学 歯学部歯科矯正学講座	診療准教授
	渡邊 佳一郎	徳島大学 大学院医歯薬学研究部	助教
	依田 哲也	東京医科歯科大学 顎顔面外科学分野	教授
	森田 圭一	東京医科歯科大学 顎顔面外科学分野	准教授
	原園 陽介	東京医科歯科大学 顎顔面外科学分野	助教
	岡 明	埼玉県立小児医療センター	病院長
	田倉 智之	日本大学 医学部社会医学系 医療管理学分野	主任教授
	野田 龍也	奈良県立医科大学 医学部公衆衛生学講座	准教授
	竹原 健二	国立成育医療研究センター病院 研究所 政策科学研究部	部長
	盛一 享徳	国立成育医療研究センター病院 研究所 小児慢性特定疾病情報室	室長

育成医療対象疾患の実態把握に関する研究班（令和6－7年）



①領域別全国調査

令和6年度

全国調査体制整備・
計画・倫理審査
(令和6年4月－10月)

調査システム構築
(令和6年11月－令和7年3月)

令和7年度

全国調査実施
(令和7年4月－令和7年7月)

結果解析・報告
(令和7年8月－令和8年3月)

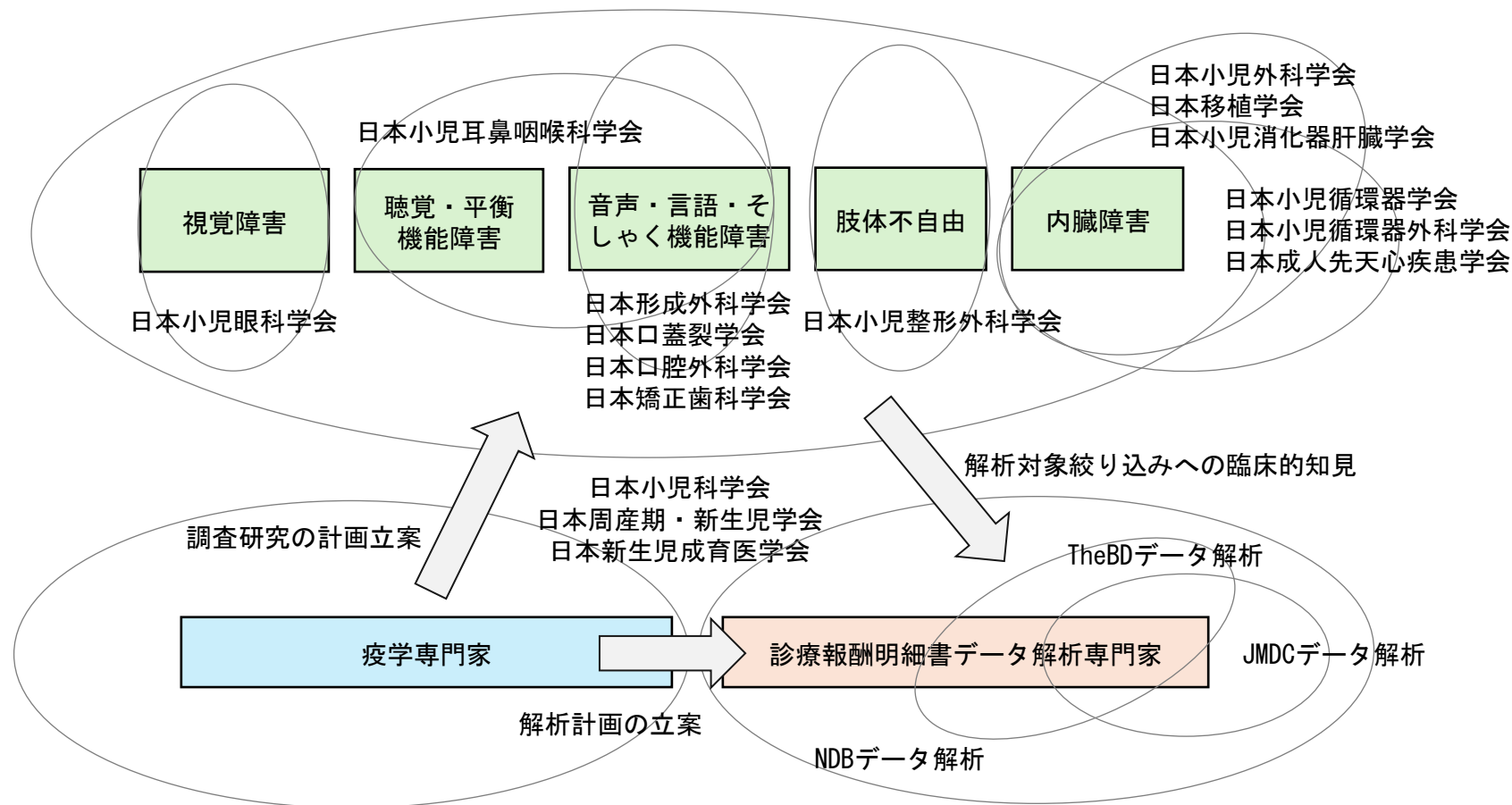
②診療報酬明細書データ解析

データ利用計画・倫理審査
(令和6年4月－7月)

データ取得・解析
(令和6年7月－令和7年10月)

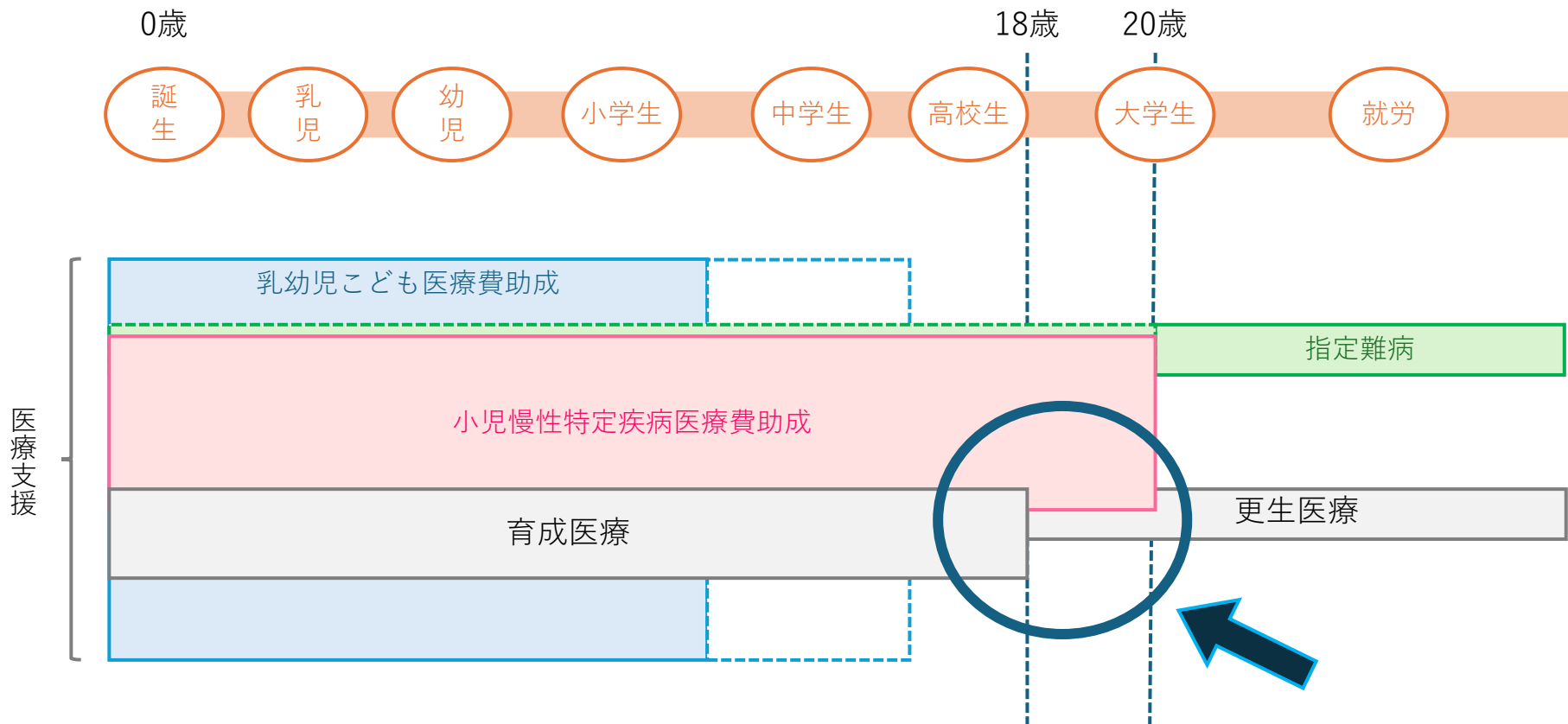
結果解析・報告
(令和7年11月－令和8年3月)

育成医療対象疾患の実態把握に関する研究班（令和6－7年）



① 疾患領域別全国調査

② レセプト分析



本研究は、育成医療から更生医療への制度の切れ目の部分に生じている医療費助成支援の不均衡の実態を把握することを目的とする。

令和6年度 育成医療対象疾患の実態把握に関する研究班 進捗

① 疾患領域別全国調査

② レセプト分析

育成医療を申請したことがある疾患について班員より聴取し、病名リストを作成

JMDCからの傷病名抽出リストを元に原病名と思われる病名リストを作成

二つの病名リストを合わせて、全国調査のための基礎資料とし、全国調査の計画を立案

調査手法の変更計画中

- 対象を医師のみから、医療事務＋医師に変更したスキームに調整中
- 調査結果の正確性と調査対象者の負担軽減

〈JMDC〉

先行して法別番号16が付与されているレセプトにある傷病名リストを抽出

福祉行政報告例による報告人数のおよそ1/4をカバーしている可能性あり

〈TheBD〉

- DBデータ抽出の計画立案、準備

- 法別番号16が付与されているレセプトにある傷病名リストを抽出

- 17→19歳への制度の切れ目において制度移行ができているかの確認

- 18歳以降の医療介入の抽出

〈NDB〉

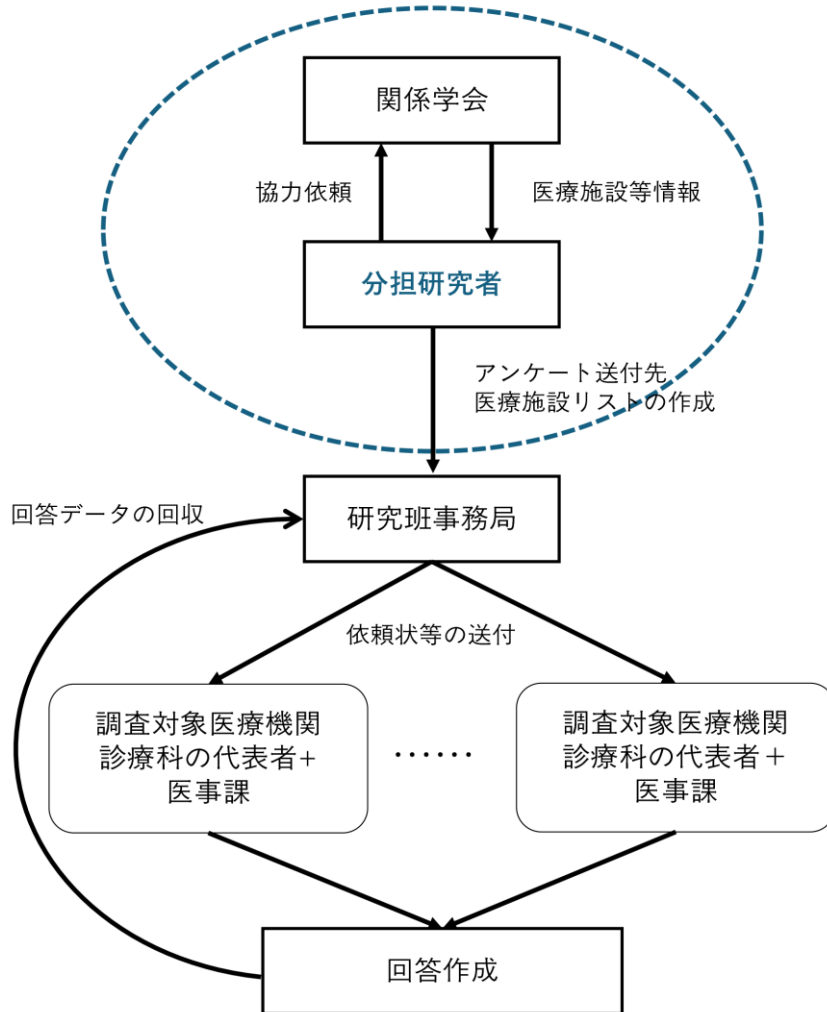
6月審査に向けて事前申請、書面審査

NDBデータ提供に係る審査会

条件付承諾
資料追加提出

データ提供待ち

① 疾患領域別全国調査



- ① 育成医療を申請する機会が多いと考えられる医療機関を選定
 - ② 医療機関の診療科代表に質問紙を送付
 - ③ 回答は医療事務と協力して作成
- 育成医療を申請した疾患名、申請時期等を医事課の記録より抽出
 - 抽出結果から主病名を医師が判別
 - 更生医療への移行状況も調査
 - 作成した予想される代表的な疾患名リストを送付し、医事課記録からのデータ抽出の参考とする

① 疾患領域別全国調査

1. プレ調査（成育医療研究センター）

目的	データ抽出の技術的方法と取得可能なデータ範囲について検証
データ期間	2021年5月診療分から2024年12月診療分まで（3年7か月）
適格条件	公費（育成医療：法別番号16、更生医療：法別番号15）を利用した請求の傷病名、年齢等
抽出方法	医科および歯科のデータから法別番号16，15があるレコードの傷病名等を抽出する。

	法別番号16	法別番号15
対象者数	128	26

今回の検討では、データ期間（3年半）において、育成医療から更生医療へ移行している者は抽出されなかった。

① 疾患領域別全国調査

2. 抽出病名（育成医療）

ICD-10 code	傷病名
C222, C349, C349, C480, C809, C857, C959	肝芽腫, 肺癌, 小児胸膜肺芽腫, 後腹膜胚細胞腫瘍, 悪性ラブドイド腫瘍, 慢性活動性EBウイルス感染症, 白血病
D180, D370, D421, D441, D477, D480, D481	肝血管腫, 鼻咽頭腫瘍, 脊髄髄膜腫瘍, 副腎腫瘍, T細胞性移植後リンパ増殖性疾患, 腓骨遠位部骨腫瘍, 足底部軟部腫瘍
D681, D682, D684, D688, D70, D763, D801, D841, D849	第XI因子欠乏症, アンチトロンビンIII欠乏症, 第VIII因子欠乏症, 第X因子欠乏症, 第XIII因子欠乏症, 後天性低プロトロンビン血症, プロテインS欠乏症, 好中球減少症, 血球貪食症候群, 低ガンマグロブリン血症, 補体欠損症, 免疫不全
E039, E050, E063, E071	甲状腺機能低下症, バセドウ病, 橋本病, ペンドレッド症候群
E14, E232, E283, E300, E301, E343, E550	糖尿病, 下垂体性尿崩症, 性腺機能低下症・女性, 思春期遅発症, 低身長症, くる病
E722, E729, E830, E888	尿素サイクル異常症, アミノ酸代謝異常症, ウイルソン病, 肝ヘモクロマトーシス, ミトコンドリア病, ミトコンドリア肝症
F411, F432, F459, F489, F509, F840, F849, F900	不安神経症, 適応障害, 心身症, 精神神経症, 摂食障害, 自閉症, 小児自閉症, 自閉症スペクトラム障害, 注意欠陥多動障害

① 疾患領域別全国調査

2. 抽出病名（育成医療）

ICD-10 code	傷病名
G408, G409, G803, G808, G809, G824, G839, G911, G919	症候性てんかん, てんかん, アテトーシス型脳性麻痺, 混合型脳性麻痺症候群, 脳性麻痺, 痙性四肢麻痺, 痙性麻痺, 非交通性水頭症, 水頭症
H215, H264, H269, H270, H353, H405, H409, H500	虹彩癒着, 後発白内障, 白内障, 無水晶体眼, 黄斑変性, 続発性緑内障, 緑内障, 内斜視
H71, H900, H901, H902, H903, H905, H905, H912	真珠腫性中耳炎, 両側性伝音難聴, 一側性伝音難聴, 伝音難聴, 両側性感音難聴, 感音難聴, 先天性難聴, 突発性難聴, 難聴, 遺伝性難聴, 聴覚障害
I050, I071, I10, I110, I150, I270, I370, I371, I408, I409, I420, I441, I442, I443, I451, I470, I471, I493, I499, I500, I509	僧帽弁狭窄症, 三尖弁逆流, 本態性高血圧症, 高血圧切迫症, 高血圧症, 高血圧性心不全, 腎血管性高血圧症, 肺動脈性肺高血圧症, 肺高血圧症, 感染性心内膜炎, 僧帽弁閉鎖不全症, 僧帽弁逆流症, 大動脈弁狭窄症, 肺動脈弁狭窄症, 肺動脈弁閉鎖不全症, 劇症型心筋炎, 急性心筋炎, 特発性拡張型心筋症, 高度房室ブロック, 第2度房室ブロック, 完全房室ブロック, 房室ブロック, 右脚ブロック, リエントリー性心室性不整脈, 心房頻拍, 心室期外収縮, 不整脈, うっ血性心不全, 心臓性浮腫, 慢性心不全, 心不全
J386, J387, J980, J988	喉頭狭窄症, 喉頭肉芽腫, 気管支狭窄症, 気道狭窄
K070, K210, K449, K631, K721, K729, K739, K746, K754, K758, K838, K918	小顎症, 逆流性食道炎, 術後難治性逆流性食道炎, 維持療法の必要な術後難治性逆流性食道炎, 難治性逆流性食道炎, 胃食道逆流症, 食道狭窄, 食道裂孔ヘルニア, 小腸穿孔, 慢性肝不全, 肝不全, 慢性肝炎, 肝硬変症, 非代償性肝硬変, 自己免疫性肝炎, 胆汁うっ滞性肝炎, 胆道閉鎖, 短腸症候群

① 疾患領域別全国調査

2. 抽出病名（育成医療）

ICD-10 code	傷病名
L511, M311, M318, M329, M350, M352	スティーブンス・ジョンソン症候群, 血栓性微小血管症, A N C A 関連血管炎, 全身性エリテマトーデス, シェーグレン症候群, ベーチェット病
M0690, M179, M2106, M2147, M217, M2179, M2435, M2451, M2453, M2454, M2456, M2459, M2462, M2492, M2532, M2595, M4129, M4159, M4199, M4342, M6259, M8199, M8416, M8999, M930, M950	関節リウマチ, 変形性膝関節症, 外反膝, 開張足, 後天性脚長不等, 下肢短縮萎縮, 麻痺性股関節脱臼, 肩関節拘縮, 前腕回内拘縮, 手関節拘縮, 屈指症, 膝関節拘縮, 内転拘縮, 肘関節強直, 小児肘内障, 肘関節不安定症, 股関節開排制限, 特発性側弯症, 症候性側弯症, 脊柱側弯症, 非外傷性環軸関節亜脱臼, 廃用症候群, 骨粗鬆症, 下腿偽関節, 骨内異物残留, 大腿骨頭すべり症, 外鼻変形
N017, N049, N110, N133, N189, N289, N302, N390	A N C A 関連腎炎, ネフローゼ症候群, 逆流性腎症, 水腎症, 慢性腎不全, 慢性腎臓病, 慢性複雑性膀胱炎, 慢性再発性膀胱炎, 慢性膀胱炎, 複雑性尿路感染症
Q054, Q059, Q068, Q070	髄膜瘤を伴う水頭症, 脊髄髄膜瘤, 係留脊髄, キアリ奇形第2奇形
Q120, Q131, Q134, Q139, Q150	先天性白内障, 無虹彩, 無虹彩症, ピーターズ奇形, 前眼部形成異常, 新生児緑内障, 発達緑内障
Q161, Q172, Q173, Q300, Q315, Q324, Q330	先天性外耳道閉鎖症, 小耳症, 耳介形成異常, 後鼻孔閉鎖症, 喉頭軟化症, 気管支閉鎖, 先天性のう胞性腺腫様形成異常, 先天性のう胞性肺疾患

① 疾患領域別全国調査

2. 抽出病名（育成医療）

ICD-10 code	傷病名
Q201, Q203, Q210, Q211, Q212, Q213, Q221, Q224, Q226, Q230, Q232, Q234, Q242, Q243, Q248, Q249, Q250, Q251, Q254, Q255, Q256, Q262, Q265, Q268	両大血管右室起始症, 完全大血管転位症 1 型, 完全大血管転位症, 完全大血管転位症 2 型, 心室中隔欠損症, 筋性部心室中隔欠損, 卵円孔開存症, 心房中隔欠損症, 完全型房室中隔欠損症, 房室中隔欠損症, ファロー四徴症, 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症, 先天性肺動脈弁狭窄症, 三尖弁閉鎖症, 右心低形成症候群, 先天性大動脈弁狭窄症, 先天性僧帽弁狭窄症, 左心低形成症候群, 三心房心, 肺動脈弁下狭窄症, 単心房単心室, 先天性心疾患, 動脈管開存症, 大動脈縮窄症, 大動脈縮窄複合, 右側大動脈弓, 重複大動脈弓, 肺動脈閉鎖症, 純型肺動脈閉鎖, 末梢性肺動脈狭窄症, 肺動脈狭窄症, 心臓型総肺静脈還流異常症, 総肺静脈還流異常, 門脈還流異常症, ガレン大静脈瘤
Q359, Q369, Q370, Q371, Q373, Q374, Q375, Q378, Q379	口蓋裂, 片側性不完全唇裂, 唇裂, 片側性唇裂, 両側性唇顎硬口蓋裂, 片側性唇顎硬口蓋裂, 片側性唇顎軟口蓋裂, 両側性唇顎硬軟口蓋裂, 片側性唇顎硬軟口蓋裂, 両側性唇顎裂, 唇顎口蓋裂, 唇顎裂, 片側性唇顎裂, 片側性唇顎口蓋裂
Q391, Q393, Q401, Q412b, Q419b, Q423b, Q432, Q433a, Q442, Q447	C型食道閉鎖, 先天性食道狭窄症, 先天性食道裂孔ヘルニア, 回腸閉鎖, 小腸閉鎖, 中間位鎖肛, ヒルシュスプルング病類縁疾患, 腸回転異常, 胆道閉鎖症, アラジール症候群
Q531, Q539, Q540, Q549, Q649	一側性停留精巣, 停留精巣, 冠状溝部尿道下裂, 尿道下裂, 尿路奇形

① 疾患領域別全国調査

2. 抽出病名（育成医療）

ICD-10 code	傷病名
Q658, Q662, Q667, Q668, Q680, Q681, Q688, Q690, Q691, Q700, Q701, Q702, Q703, Q704, Q709, Q713, Q714, Q716, Q719, Q723, Q727, Q738, Q740, Q742, S7230	臼蓋形成不全, 内転足, 凹足, 内反足, 先天性筋性斜頸, 斜指症, 先天性前腕変形, 副指, 重複母指, 複雑性合指症, 単純性合指症, 複雑性合趾症, 単純性合趾症, 多合趾症, 合指症, 合趾症, 橈側列欠損, 橈側列形成障害, 先天性内反手, 裂手, 上肢の減形成, 腓側列欠損, 裂足, 欠肢症, 橈尺骨癒合症, 短指症, 巨指症, 巨趾症, 大腿骨骨幹部骨折
Q754, Q759, Q773, Q774, Q789, Q798, Q870, Q872, Q890, Q898, Q902, Q909	トリーチャ・コリンズ症候群, 顔面骨先天異常, 点状軟骨異形成症, 軟骨形成不全症, 軟骨無形成症, 軟骨異形成症, 先天性絞扼輪, ポーランド症候群, ゴールデンハー症候群, V A T E R症候群, 無脾症候群, 片側肥大症, 転座トリソミー21, ダウン症候群

① 疾患領域別全国調査

3. 抽出病名（更生医療）

傷病名	傷病名（原疾患）
生体肝移植後、脳死肝移植後、肝移植後	自己免疫性肝炎、B型慢性肝炎、肝細胞癌、B型肝炎硬変、胆道閉鎖症、先天性胆道閉鎖症、糖原病1b型、原発性硬化性胆管炎、オルニチントランスカルバミラーゼ欠損症
生体腎移植後	低形成腎、慢性腎不全
ゴールデンハー症候群	症候性側弯症、肩関節拘縮、小耳症
両側唇顎口蓋裂	

② レセプトデータ分析

1. データ分析（背景情報）

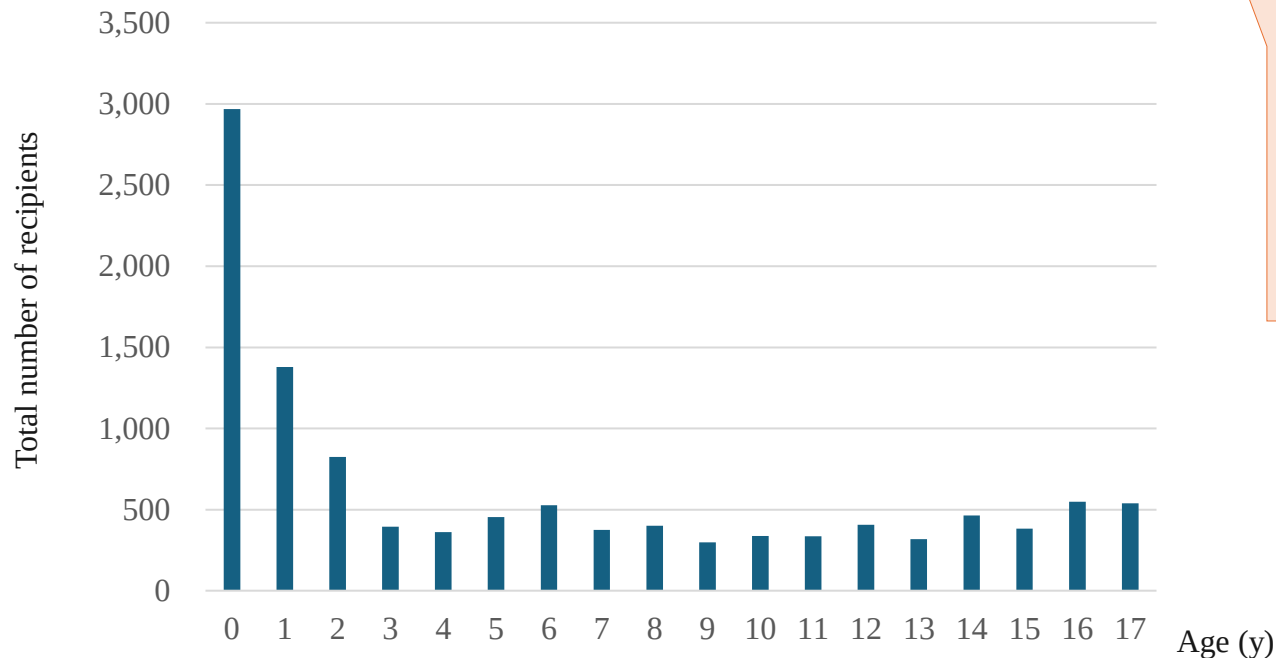
- 目的 育成医療（法別番号16）と更生医療（法別番号15）が付いている「レセプト傷病名」をJMDCデータから抽出する。
- データ期間 2020年1月診療分から2023年3月診療分まで
- 適格条件 法別番号16または15 による公費点数が出現しているレセプトに限る

	計	2020年1月～ 2021年03月	2021年4月～ 2022年03月	2022年4月～ 2023年03月
法別番号16	1,891	948	798	643
（抽出割合）		(4.0%)	(3.4%)	(3.4%)
法別番号15	7,978	5,760	5,727	5,908
育成医療 支払決定人数		23,880	23,290	19,037

福祉行政報告例における育成医療の支払決定人数との比較により、総数のおよそ **3～4%程度** がデータに含まれていると見込まれた。

② レセプトデータ分析

2. データ分析（育成医療の年齢別分布）



JMDCデータにおける20歳未満母集団に対する育成医療受給者の割合は0.03 ~ 0.04 %

わが国の20歳未満人口に対する福祉行政報告例の育成医療支払決定人数の割合は、0.1%前後

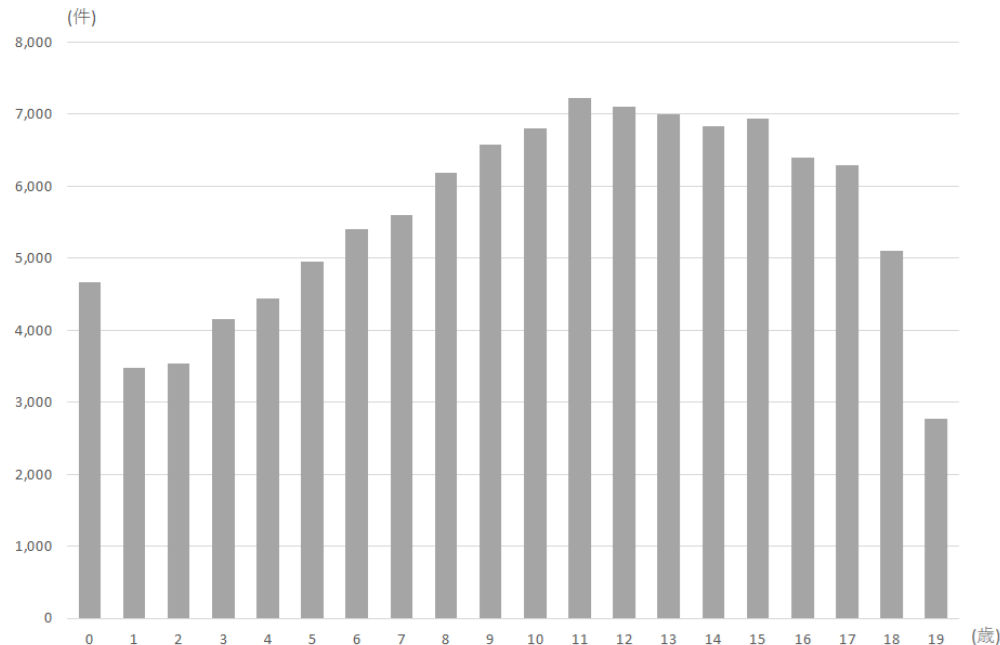
JMDCデータにおける育成医療受給の割合は全人口比と比べやや少なかった。

データ期間（3年間）における育成医療による公費負担が発生したレセプトに記載されていた傷病名を持つ年齢階層ごとの延べ人数

② レセプトデータ分析

(比較参考) 2018年小児慢性特定疾病年齢別登録件数

年齢	2018年度
0歳	4,672
1歳	3,482
2歳	3,536
3歳	4,151
4歳	4,443
5歳	4,954
6歳	5,407
7歳	5,596
8歳	6,182
9歳	6,577
10歳	6,806
11歳	7,218
12歳	7,109
13歳	6,993
14歳	6,831
15歳	6,946
16歳	6,399
17歳	6,298
18歳	5,105
19歳	2,779



小児慢性特定疾病情報センター (<https://www.shouman.jp/>) より

育成医療の受給者は、小慢などとは異なり治療介入により症状の改善が見込める者が対象となるため、症例の蓄積がないと考えられた

② レセプトデータ分析

3. データ分析（育成医療から更生医療への移行）

- 目的 17歳時点で「育成医療」を持っていた人のうち、どのくらいの割合の人が、18歳以降も同じ病名で「更生医療」を持っているのかを検討。
- データ期間 2019年1月診療分から2023年3月診療分まで。
- 適格条件 誕生月（17歳から18歳になった月）の前後6か月に在籍している（データベースから離脱していない）者を対象とした。
- 抽出方法 データ期間中、傷病名に法別番号16（育成医療）または法別番号15（更生医療）があるレセプトから傷病名を抽出し対象者を数えた。

	法別番号16	法別番号15
対象者数	193	0

今回の検討では、データ期間（3年間）において、育成医療から更生医療へ移行している者は抽出されなかった。

② レセプトデータ分析

4. データ分析（傷病名、16歳以上、育成医療）

ICD-10 code	レセプト標準病名	延べ人数
C719, C723	星細胞腫, 視神経膠腫	2
D164, D169, D180, D224, D329, D333, D391, D434, D481, D485, D487	外耳道骨腫, 骨軟骨腫, 顔面血管腫, 乳児血管腫, 頭部脂腺母斑, くも膜のう腫, 三叉神経鞘腫, 卵巣腫瘍, 馬尾神経腫瘍, 背部皮下腫瘍, 外耳道腫瘍, 眼窩腫瘍, 結膜腫瘍	18
D70, D848	白血球減少症, 原発性免疫不全症候群	2
E039, E041, E050, E059	甲状腺機能低下症, 甲状腺のう胞, バセドウ病, 甲状腺機能亢進症	25
E11, E119, E14	2型糖尿病, 2型糖尿病・糖尿病性合併症なし, 糖尿病	9
E300, E343	思春期遅発症, 低身長症	13
F209, F319, F329, F341, F411, F419, F488, F70, F72, F79, F799, F809, F82, F840, F845, F849, F89, F900	統合失調症, 双極性障害, うつ病, うつ状態, 神経症性抑うつ状態, 不安神経症, 不安障害, 小児神経症, 神経症, 軽度知的障害, 重度知的障害, 知的障害, 知的障害・行動機能障害の言及なし, 言語発達遅滞, 運動発達遅滞, 自閉症, アスペルガー症候群, 自閉症スペクトラム障害, 発達障害, 注意欠陥多動障害	139

② レセプトデータ分析

4. データ分析（傷病名、16歳以上、育成医療）

ICD-10 code	レセプト標準病名	延べ人数
G121, G245, G403, G408, G409, G439, G470, G629, G64, G700, G809, G824, G825, G839, G919, G932, G936, G950, G958, G960, G971, G98	脊髄性筋萎縮症ⅠⅠ型, 眼瞼痙攣, 強直間代発作, 症候性てんかん, てんかん, 片頭痛, 不眠症, 睡眠障害, 末梢神経障害, 末梢性神経障害性疼痛, 重症筋無力症, 脳性麻痺, 痙性四肢麻痺, 四肢麻痺, 痙性麻痺, 水頭症, 頭蓋内圧亢進症, 脳浮腫, 脊髓空洞症, 脊髓係留症候群, 脳脊髄液漏, 低髄液圧症, 神経障害性疼痛	236
H311, H330, H332, H350, H352, H354, H400, H409, H433, H491, H500, H501, H502, H503, H505, H509	網脈絡膜萎縮, 裂孔原性網膜剥離, 網膜剥離, 輪状網膜症, 増殖性硝子体網膜症, 網膜周辺部変性, 高眼圧症, 緑内障, 硝子体混濁, 上斜筋麻痺, 内斜視, 部分調節性内斜視, 外斜視, 上下斜視, 下斜筋過動, 間欠性外斜視, 内斜位, 斜視	229
H71, H741, H742, H810, H839, H901, H902, H903, H905, H908, H919, H921	真珠腫性中耳炎, 癒着性中耳炎, 外傷性耳小骨離断, 内耳性めまい, 迷路障害, 一側性伝音難聴, 伝音難聴, 両側性感音難聴, 感音難聴, 先天性難聴, 混合性難聴, 難聴, 持続性耳漏	149

② レセプトデータ分析

4. データ分析（傷病名、16歳以上、育成医療）

ICD-10 code	レセプト標準病名	延べ人数
I058, I071, I080, I10, I209, I270, I279, I340, I341, I350, I351, I358, I38, I451, I456, I471, I472, I493, I498, I500, I509, I513, I712, I731, I744, I802, I81, I951, I959	僧帽弁不全症, 三尖弁閉鎖不全症, 大動脈弁閉鎖不全症兼僧帽弁閉鎖不全症, 高血圧症, 高血圧性緊急症, 狭心症, 肺高血圧症, 肺性心, 僧帽弁閉鎖不全症, 僧帽弁逸脱, 大動脈弁狭窄症, 大動脈弁閉鎖不全症, 大動脈弁輪拡張症, 大動脈弁逸脱, 心臓弁膜症, 不完全右脚ブロック, W PW症候群, 上室頻拍, 発作性上室頻拍, 非持続性心室頻拍, 心室期外収縮, 洞不整脈, 心臓性浮腫, うっ血性心不全, 急性心不全, 心不全, 慢性心不全, 心房内血栓症, 胸部大動脈瘤, 弓部大動脈瘤, 上行大動脈拡張, 閉塞性血栓血管炎, 末梢動脈塞栓症, 下肢静脈血栓症, 深部静脈血栓症, 門脈血栓症, 門脈塞栓症, 起立性調節障害, 一過性低血圧症	635
K071, K072, K074, K079, K088, K121	上顎後退症, 下顎前突症, 反対咬合, 咬合異常, 顎変形症, 咀嚼障害, 口内炎	26
K210, K222, K254, K259, K290, K291, K295, K297, K30, K315, K318, K358, K429, K529, K560, K580, K589, K623, K648, K659, K710, K769, K910, K922	逆流性食道炎, 難治性逆流性食道炎, 維持療法の必要な難治性逆流性食道炎, 食道狭窄, ステロイド潰瘍, 胃びらん, 胃潰瘍, 出血性胃炎, 急性胃炎, 慢性胃炎, 胃炎, 機能性ディスペプシア, 上腸間膜動脈症候群, 胃痙攣, 急性虫垂炎, 臍ヘルニア, 慢性腸炎, 腸麻痺, 下痢型過敏性腸症候群, 過敏性腸症候群, 直腸脱, 直腸粘膜脱, 炎症性内痔核, 腹膜炎	239

② レセプトデータ分析

4. データ分析（傷病名、16歳以上、育成医療）

ICD-10 code	レセプト標準病名	延べ人数
M199, M200, M201, M210, M214, M215, M216, M217, M219, M220, M231, M242, M243, M245, M255, M402, M411, M412, M414, M415, M419, M430, M431, M465, M478, M479, M512, M531, M549, M659, M779, M791, M796, M815, M819, M840, M841, M842, M865, M866, M869, M930, M950,	変形性関節症, 母指変形, 外反母趾, 外反膝, 外反扁平足, 扁平足, 麻痺性尖足, 足部変形, 下肢短縮萎縮, 後天性脚長不等, 手変形, 習慣性膝蓋骨脱臼, 円板状半月板, 足関節不安定症, 麻痺性股関節脱臼, 関節拘縮, 股関節拘縮, 足関節拘縮, 膝関節拘縮, 屈趾症, 手指関節拘縮, 脊柱後弯, 若年性特発性脊柱側弯症, 特発性胸椎側弯症, 特発性側弯症, 特発性胸腰椎側弯症, 麻痺性側弯症, 症候性胸腰椎側弯症, 症候性側弯症, 腰椎側弯症, 脊柱側弯症, 胸椎側弯症, 姿勢性脊柱側弯症, 脊柱後側弯症, 胸腰椎側弯症, 脊椎分離症, 腰椎分離すべり症, 胸椎化膿性脊椎炎, 頸椎症, 変形性脊椎症, 腰椎椎間板ヘルニア, 頸肩腕症候群, 若年性骨粗鬆症, 骨粗鬆症, 大腿骨骨折変形治癒, 中足骨偽関節, 脛骨骨折の遷延癒合, 慢性血行性脛骨骨髓炎, 下腿骨慢性骨髓炎, 脛骨慢性骨髓炎, 血行性脛骨骨髓炎, 大腿骨頭すべり症, 外鼻変形	485
N017, N028, N110, N12, N133, N185, N189, N19, N200, N289, N319, N359, N360, N390, N47, N943, N946, N991	急速進行性びまん性半月体形成性糸球体腎炎, I g A 腎症, 逆流性腎症, 腎盂腎炎, 水腎症, 末期腎不全, 慢性腎臓病ステージ G 5, 慢性腎臓病ステージ G 5 D, 慢性腎不全, 慢性腎臓病, 腎性貧血, 腎結石症, 腎機能低下, 神経因性膀胱, 尿道狭窄症, 尿道直腸瘻, 尿路感染症, 包茎	141

② レセプトデータ分析

4. データ分析（傷病名、16歳以上、育成医療）

ICD-10 code	レセプト標準病名	延べ人数
Q039, Q070, Q283, Q760, Q760, Q850	新生児水頭症, アーノルド・キアリ奇形, キアリ奇形第1奇形, 脳静脈奇形, 潜在性脊椎披裂, 脊髄脂肪腫, 神経線維腫症1型	29
Q103, Q130, Q150	先天性睫毛内反症, 虹彩欠損症, 新生児緑内障, 発達緑内障	12
Q163, Q165, Q170, Q172, Q309, Q311, Q321, Q388, Q674	耳小骨の先天奇形, 内耳先天奇形, 副耳, 小耳症, 外鼻奇形, 鼻の先天奇形, 先天性声門下狭窄症, 先天性気管狭窄症, 先天性鼻咽腔閉鎖不全, 先天性鼻中隔彎曲症	61
Q210, Q211, Q213, Q231, Q251	心室中隔欠損症, 心房中隔欠損症, ファロー四徴症, 二尖大動脈弁, 大動脈弓離断症	283
Q870, Q872, Q874, Q909, Q917, Q999	第1第2鰓弓症候群, 歌舞伎症候群, VATER症候群, マルファン症候群, ダウン症候群, トリソミー13, 染色体異常	59
Q825	顔面単純性血管腫	1
Q353, Q360, Q369, Q371, Q374, Q375, Q378, Q379	粘膜下口蓋裂, 口蓋裂, 両側性唇裂, 唇裂, 片側性不完全唇裂, 変治唇裂, 片側性唇顎硬口蓋裂, 片側性唇硬口蓋裂, 両側性唇顎硬軟口蓋裂, 片側性唇顎硬軟口蓋裂, 両側性唇顎・粘膜下口蓋裂, 両側性唇顎口蓋裂, 両側性唇口蓋裂, 唇顎口蓋裂, 唇顎裂, 片側性唇顎裂	318

② レセプトデータ分析

4. データ分析（傷病名、16歳以上、育成医療）

ICD-10 code	レセプト標準病名	延べ人数
Q390, Q410, Q423, Q442	食道閉鎖, 十二指腸閉鎖, 鎖肛, 中間位鎖肛, 胆道閉鎖症	55
Q615, Q621	思春期ネフロンろう, ネフロンろう, 先天性腎盂尿管移行部狭窄	7
Q652, Q658, Q660, Q668, Q675, Q676, Q704, Q709, Q723, Q727, Q729, Q742, Q743, Q777, Q780, Q872	先天性股関節脱臼, 先天性股関節脱臼後遺症, 臼蓋形成不全, 内反尖足, 尖足, 内反足, 先天性内反足, 先天性脊柱側弯症, 漏斗胸, 多合指症, 合指症, 合趾症, 先天性脛骨列欠損症, 裂足, 下肢形成不全, 先天性脚 長不等, 中足骨奇形, 短趾症, 中足骨短縮症, 先天性多発性関節拘縮症, 脊椎骨端骨異形成症, 骨形成不全症, ラーセン症候群	195
S008, S069, S131, S276, S424, S724, S730, S832, S934, S936	顔面擦過傷, 顔面挫傷, 硬膜損傷, 環軸関節亜脱臼, 胸膜損傷, 上腕骨 顆上骨折, 大腿骨顆部骨折, 大腿骨遠位骨端線損傷, 股関節脱臼, 半月 板損傷, 足関節捻挫, 足関節外側靱帯捻挫, 足部捻挫	16